

名簿管理の難しさ

上原 昇(2組、関東同期会代表幹事)

昨年、母校が創立120周年を迎え、その記念事業として同窓会が寄付を集めて校門前のお堀の浚渫工事を行ったことなどはお知らせしてきました。

120周年記念式典は、昨年10月24日に開催される予定でしたが、コロナ禍のため1年延期されました。現在の計画では、本年10月16日(土)に上田で会員大会と併せて開催する予定ですが、これも感染次第でどうなるか分かりません。

120周年記念事業の一環として、同窓会員名簿作成が行われています。

同窓会員名簿は創立100周年記念事業として、2000年(平成12年)10月に発行され、関係者に5千円で頒布されました。その名簿には第1期から当時の在校生101期までの2万6千名超の名前、住所(現住所と実家住所)、勤務先、修卒などが掲載され、1100ページにおよぶ大冊です。

その後、110周年と今回の120周年を迎えたわけですが、名簿情報の扱いは年々難しくなっています。特に活字化して発行するのはほとんど不可能な状態です。

その理由には、大きく二つあると思われます。

一つには個人情報保護によるものです。もう一つは特に若い世代で顕著な傾向として、名簿を必要としなくなっているようです。彼らの同期仲間との連絡は昔のように電話や郵便で行うことは稀で、殆どがスマホやパソコンで済ませてしまいます。年賀状の習慣も失われつつあり、誰がどこに住んでいるのかは知る必要がないのかもしれない。

今回も名簿情報の更新・整備を行ったうえで、発行・配布は行わず、同窓会事務局での使用にとどめるとのことです。

今回、その一環で65期の関東在住者の住所確認を依頼されました。私が長い間、関東の同期会の世話役を務めている関係で、名簿情報に詳しいからでしょうか。

以下、その作業で気づいたことを記します。

- 1) 本部に登録されている65期関東在住者147名を確認したところ、物故者が2名、住所不明1名が入っていました。
- 2) 本部名簿に抜けている関東在住者が4名いました。
- 3) 関東内で転居したが転居先が本部に報告されていない人が5名いました。
- 4) 本部名簿に登録されているが、筆者の名簿に未登録の人が2名いました。

特に4)の人は、本部に住所を連絡したきりで、関東の同期には知らせていないことが

分かります。そのうちの一人のT君とは筆者も親しかったので、連絡したところ返信があり、半世紀以上ぶりのやりとりが出来ました。

名簿の管理は大変ですが、そこにはいろんな出会いが潜んでいることが改めて分かりました。

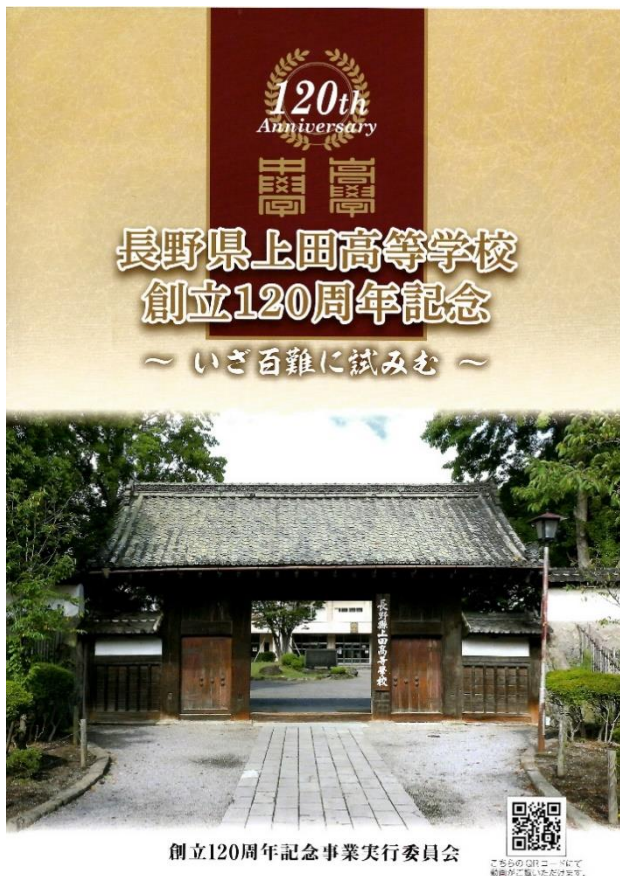
【写真は昨年10月配布された120周年記念パンフ表紙】

以下は筆者が把握している限りでの65期同期に関わる各種情報です。

1. 昭和42年(1967年)3月に卒業した同期は470名
2. 現在、確認している物故者は52名
3. 現在、住所が分からない人は30名
4. 現在、関東地区に在住していることが確認できる人は149名
5. 現在、パソコンのメールアドレスが分かるのは全体の約三分の二で、かなり多くの人にはメールで連絡が可能です。(メールアドレスの変更をした場合には、仲間と代表幹事に連絡をお願いします)
6. 5年前、卒後50年を記念して開催した同期会の時に作成した65期の名簿は、65期ホームページに登録されています。検索する場合にはパスワードが必要となりますので、ご存じない方は連絡ください。
7. 最近、同窓会や同期会の連絡は不用という人が出てきたのは気になります。

長引くコロナ禍で同期会も開けないなか、また同期で集まってワイワイやれる日が来ることを願う昨今です。

(2021年5月3日記)



以上